

民族の経験から スフィア基準を考える



おおいし ひさかず
一般社団法人 全日本建設技術協会 会長 大石 久和

筆者は、「人は愛する者の死に出会ったときに、最も深く心を揺さぶられ、なぜこの死を防ぐことができなかつたのかと最も深く考えるものなのだ」と本連載でも繰り返し述べてきた。

本誌の読者である全建会員諸氏と同様に、インフラに携わっている筆者が「なぜこの国ではインフラの重要性が理解されないのか」という問いに長年悩み抜いた末にたどり着いた結論は、「愛する者の死との邂逅」における、「紛争を経験してきた日本以外の世界の人々」と「自然災害を経験してきた日本」との違いが、インフラに対する認識の差を生んだものという理解であった。

われわれ日本人は、日清戦争や日露戦争を除けば、太平洋戦争まで戦いによる大量の紛争死を経験してこなかった。しかし、昭和20年（1945年）3月の東京大空襲で死者10万人を経験した。これは、1日における殺戮としては、今なお世界史上最大である。

戦国時代の最大の戦いは「関ヶ原の合戦」であったが、両軍とも死者数は「極」と言えるほど少数であった。

勝利した東軍が、その後もそのまま軍を維持できたことや日本で「合戦死」を研究する人がいないことがそれを証明している。当時の武家は、農

地を耕作させることで経済的に成り立っていたのだが、それが可能なのは耕作する農民を確保できていたからで、この農民たちは（織田氏など専任の足軽部隊を持っていた例外を除いて）ほとんどが戦時に足軽として徴発されたのである。

従って、戦いで兵を損耗する、つまり足軽が殺されてしまうと、次の戦いができなくなるばかりか、耕作従事者が不足して米等を収穫できなくなってしまうのだ。そのため、武将たちは足軽を大切にして損耗を極力防ごうとしていたのだ。ドラマに見られるような、足軽が次々に倒されたり、殺されたりするような場面は、あくまでも演出である。

その端的な例が「武田信玄と上杉謙信の戦い」だ。両者は川中島を含め、たびたび戦っている。もし戦いのたびに多くの足軽を損耗していたのであれば、このような合戦の繰り返しは不可能である。

われわれの戦いの歴史は、日本人同士、いわば仲間内の戦いであり、西洋や中国のように「異民族との戦い」ではない。異民族との戦いでは、生き残った相手が新たに強力な武器を開発して戦略を磨き、仲間を増やして再挑戦してくるため、相手を殲滅することが不可欠である。

世界中で、最も厳しい殲滅戦を繰り返し経験し

てきたのが中国人である。中国人は、中国の中原を狙う周囲の蛮族(北に北狄、南に南蛮、西に西戎、東に東夷)という異民族の外敵に常に備えなければならなかった。特に、西戎は騎馬軍団であったから、中国人は何度も悲惨な大量惨殺を余儀なくされ、遂には国家を傾けるほどの金をつぎ込んで連続城壁(万里の長城)を築くことになった。これが明王朝崩壊の契機となったほどだ。

こうした四方の異民族を中国人は「四夷」と呼び、おそれていた。つまり、中国人は数千年の歴史の間、大量虐殺の意思を持って襲い来る侵略軍の侵入におびえながら暮らしてきたということなのだ。

このような歴史的経験を日本人は相対的に欠いており、その点を十分に自覚しているとは言い難い。こう見てくると、「日本人は、いざというときに必ずあるというセキュリティ概念を欠き、それが長城のような、インフラの必要性という理念を獲得できていないことにつながっている」ことが理解できると思う。

一例として紹介したいのが、国際赤十字が定めたスフィア基準である。読売新聞(令和8年3月14日)は、日本の災害時の避難所の設置基準として、これを参考にすると紹介した。

「スフィア基準、被災者を守る」と題して、「避難所運営には給水、居住空間の確保が不可欠で、政府は国際赤十字等が示した最低限の『スフィア基準』の達成を目指していく」とした上で、「居住空間は一人当たり最低3.5㎡、水(飲用及び生活用)は1日最低15リットル」といった指標を国際赤十字が示す基準として紹介した。

<スフィア基準の概要>

- ・1人当たり3.5㎡の広さを確保すること。
- ・世帯ごとに十分に囲いのある独立した生活空間を確保すること。
- ・快適な温度、換気と保護を提供すること。

- ・トイレは20人に一つ以上で男女別に使えること。女性用は男性用の3倍以上を確保すること。

日本の避難所はいまだにこの基準から大きく遅れているから、この紹介は意義あるものだ。しかし、この基準は1990年代の難民危機等をきっかけに、国際赤十字等が平成9年(1997年)に定めた「難民避難所のための基準」なのである。つまり、これを今更目指すべき基準と紹介しているということは、日本の災害時の自国民のための避難所が、国際的な難民のための避難所の設備基準さえも大きく劣後し、劣悪な状況のまま放置されていることを示しているのだ。

他国の難民の基準より、不運にも災害に遭遇してしまった自国民の避難所の設備基準の方が劣後していることは、災害大国の先進国の国民と自覚しているはずのわれわれには、理解しがたい話ではないか。政府は一体何をしているのだろう。

避難民のための「命・健康・尊厳を守る最低限」を示すというスフィア基準。そこから大きく劣後しているレベルの避難所しか持てない大災害が頻発する日本は、いくら歴史的経験が異なるといっても言い訳にもならない。これこそ政治の怠慢の極みである。